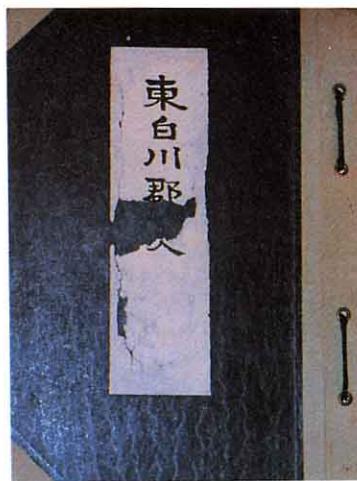




▲石澤寛助さん

▶長男 寛一さん
んらの仕事を一冊の本にまとめたもの。



●石澤寛助さんの年表

弘化元年(1844年)	東白川郡伊野上村 (現棚倉町) の大庄屋 (酒づくり) 佐川弥助さんの三男として生まれた。
明治2年(1869年)	伊野上村の石澤吉左衛門さんの養子となる。
明治3年(1870年)	「生益組」をつくる。 上台の国の土地60ヘクタールを払い下げて開たくし、生活の向上をはかった。
	「馬場都々古別神社の仁王像」を移した。 明治維新の神仏分離によって起こった、仏教破壊から像を守るため長久寺に移した。
明治4年(1871年)	「玉野堰の改修」をする。 社川に設けられた玉野堰は、毎年のように大雨のとき破壊され、また普通は水量が少なく、しばしば日照りに見舞われるために、上流に新しい堰をつくり、社川・棚倉流域の田を潤した。
明治10年(1877年)	「開農社」をつくる。 会員18名の社長となり、明治11年に県の許可を得て、唯一の民間農業指導機関をつくった。
明治16年(1883年)	寛助さんら4名の意見により、白河街道を上台坂から風呂ヶ沢に移した。
明治22年(1889年)	棚倉郵便電信電話局長になる。
明治25年(1892年)	「棚倉神農会」をつくる。 会員1,147で馬場都々古別神社において、農産物品評会